

実証事業実施における深谷市の状況

深谷市教育委員会学校教育課
課長補佐兼指導主事 鳥塚 源太郎

【本日の内容】

- I 部活動に関する深谷市の概要
- II これまでの経緯
- III 地域クラブ活動の実施について
- IV 現状の成果と課題



I 部活動に関する深谷市の概要

- ◆ 中学校数 10校
- ◆ 生徒数 3486人(R6.5現在) ※ 4465人(H18)
- ◆ 部活動数
運動部 106部
文化部 20部
- ◆ 運動部活動加入率 66.8% (R5は70.4%)

Ⅱ これまでの経緯

応募の背景

- ・少子化に伴い、教員数が減少し、今までどおりの部活動数の維持が困難
- ・スポーツや文化芸術の活動機会を確保するために、地域が受け皿となり、学校と地域とで子供たちを育てるという観点に立脚した取組が必要

令和5年11月～2月 「令和5年度深谷市地域クラブ活動実証事業」の実施（3校3活動）

令和6年 3月 実践報告会の実施（深谷市向け）

令和6年 9月～2月 「令和6年度深谷市地域クラブ活動実証事業」の実施（4校5活動）

令和7年 3月 実践報告会の実施（深谷市向け）【予定】

地域クラブ活動検討委員会で運営について協議しながら実施

Ⅱ これまでの経緯

◆深谷市地域クラブ活動検討委員会（令和5年発足）

【構成メンバー】

- ・教育長 ・教育部長 ・スポーツ協会会長 ・スポーツ少年団本部長
- ・スポーツ推進委員会会長 ・総合型地域スポーツクラブ代表
- ・レクリエーション協会会長 ・文化団体連合会会長
- ・中学校長会会長 ・小学校長会会長 ・中学校体育連盟会長 ・中学校体育連盟理事長
- ・顧問代表（運動部） ・顧問代表（文化部）

【事務局】

- ・学校教育課 ・生涯学習スポーツ振興課 ・地域クラブ活動コーディネーター

Ⅲ 地域クラブ活動の実施について

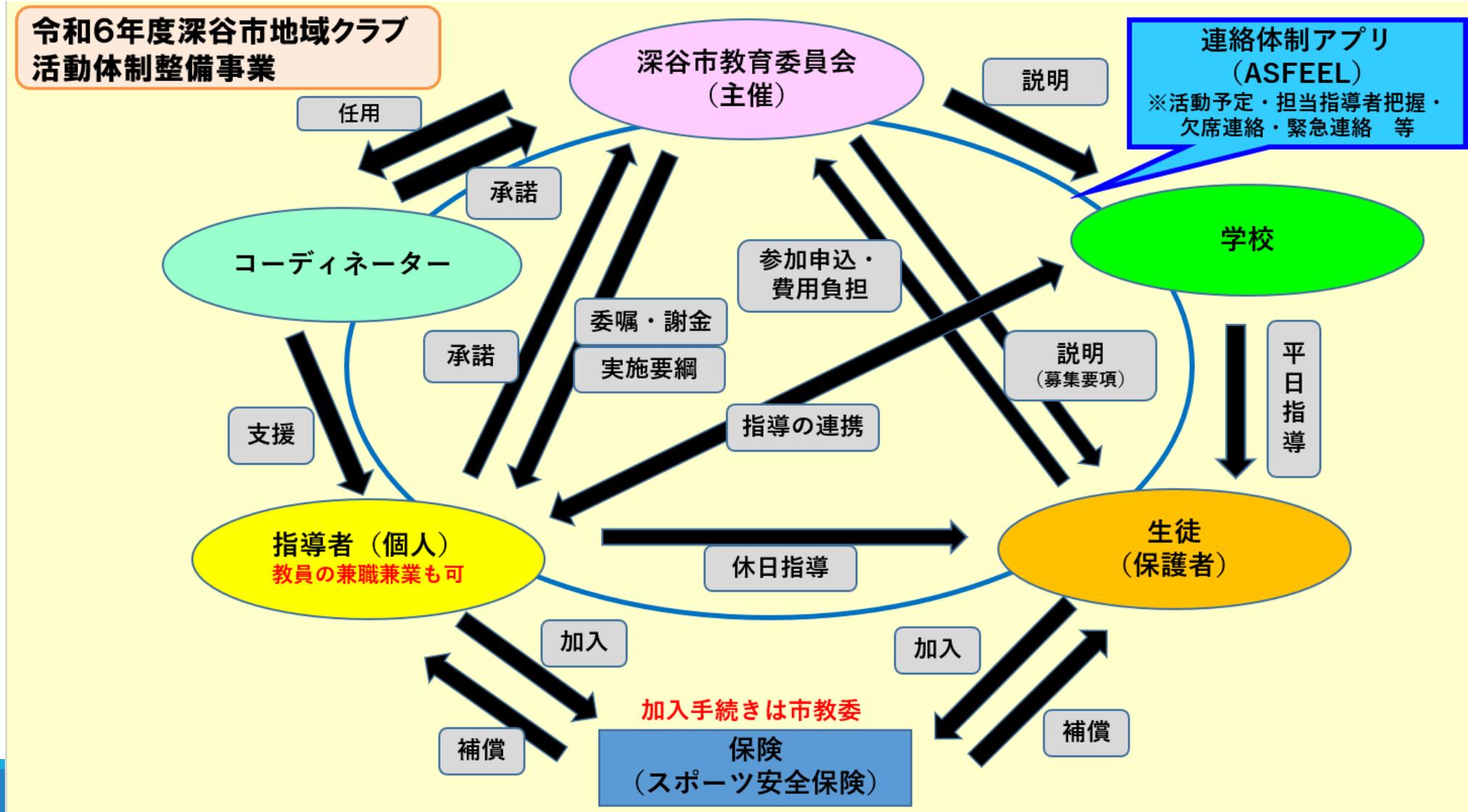
◆実施に向けた主なスケジュール

	事務局・検討委員会	学校へ	生徒・保護者へ	指導者へ
R6.6	○各団体へ募集要項の送付 ○実証部・実証団体の決定	○各中学校長へ事業概要説明 →顧問へ説明 →参加希望部調査 【実証部の決定】	【実証部の決定】	○各団体へ募集要項の送付 →協力可能団体募集 【実証団体の決定】
R6.7	○関係部の保護者・生徒への説明会の実施 ○顧問・指導者打ち合わせ会の実施	○顧問との打ち合わせ会	○保護者向け説明会 →参加者募集	○指導者向け説明会及び顧問との打ち合わせ会
R6.8	○消耗品等の購入 ○参加者の把握 ○「部活アプリ」オンライン説明会の実施 ○保険への加入手続き	○「部活アプリ」オンライン会	○活動の詳細について連絡 ○「部活アプリ」オンライン説明会	○「部活アプリ」オンライン説明会
R6.9	○実証事業開始 (9/7～) ※9/7～2/1予定 ○活動の巡回	○実証事業開始 (9/7～) ※9/7～2/1予定	○実証事業開始 (9/7～) ※9/7～2/1予定	○実証事業開始 (9/7～) ※9/7～2/1予定

Ⅲ 地域クラブ活動の実施について

- ① 実施主体：深谷市教育委員会
- ② 実施種目：卓球・剣道・ラグビー・バドミントン・ソフトテニス
※R6はスポーツ活動のみ
- ③ 実施期間：9月7日～2月1日の休日（全23回程度）
- ④ 活動場所：学校、または指導団体の活動場所
- ⑤ 指導方針：個々の生徒の技能向上
（当該クラブ活動での大会参加が主目的ではない。）
- ⑥ 費用負担：参加者1人あたり200円×参加回数、保険料800円／年
- ⑦ その他：コーディネーターを会計年度任用職員として任用

Ⅲ 地域クラブ活動の実施について 全体像



Ⅲ 地域クラブ活動の実施について

種目	卓球	剣道	ラグビー	バドミントン	ソフトテニス
協力団体	(一社)深谷スポーツ文化倶楽部 シュエット	深西剣友会	(一社)深谷スポーツクラブ	部活動外部指導者を中心とした地域指導者	卒業生(OB)を中心とした地域指導者
実証部	岡部中学校 男女卓球部	川本中学校 剣道部	南中学校 ラグビー部	豊里中学校 バドミントン部	豊里中学校 男子ソフトテニス部
登録生徒数	27名	4名	6名	13名	4名
登録指導者数	10名(内顧問2名も登録)	3名(内顧問1名も登録)	3名	6名(内顧問2名も登録)	7名(内顧問1名も登録)
活動場所	岡部中学校 体育館	川本中学校 体育館	櫛挽ヶ原ラグビー場 (団体保有施設)	豊里中学校 体育館	豊里中学校 運動場
活動の様子	 <p>顧問2名を含めた、指導者10名が指導のローテーションを組み、1回につき3名程度で指導に当たっている。</p>	 <p>専門的な指導力を有する指導者が中心となり、顧問とともに指導を行っている。顧問も指導方法を学ぶことができる。</p>	 <p>団体保有施設を使い、総合型地域スポーツクラブの指導者が、クラブに所属している生徒を含めて指導している。</p>	 <p>外部指導者として携わってきた指導者が中心となり指導を行っているため、平日の練習との指導の一貫性が維持しやすい。</p>	 <p>成人した顧問の教え子が地域の指導者として、顧問とともに指導に当たることで、今後地域で指導できる体制を整備している。</p>

IV 現状の成果と課題（○成果 ▲課題）

- 今年度も、指導経験が豊富な指導者が指導に当たっているため、より専門的な知識や技能を学べる機会になっている。
- コーディネーターが活動を巡回しているため、指導者や生徒の支援ができています。
- 生徒からも、肯定的な声が上がっている。（Q: 地域クラブ活動に満足しているか。⇒ 94%が肯定的）
例）・楽しい。・上手になっている。・たくさんのコーチに教えてもらえる。・丁寧に教えてもらえる。
・部活では知ることができないことを教えてもらえる。 など
- 連絡アプリを活用することで、必要以上に個人情報のやりとりをせずに、指導者・保護者・事務局の連絡体制が取れている。

- ▲ 本活動を今後、広げていくことを考えると、教育委員会が運営団体になって実施していくことは難しい。
- ▲ 国の補助金によって、低廉な参加費で活動が可能となっているが、補助金がなくなった場合の予算確保について、今後、大きな課題となる。（市や保護者の負担が増大）

ご清聴ありがとうございました